

## 令和元年度「私立大学研究ブランディング事業」外部評価委員会・評価表集計結果

## ① 「色の体験学習型教育システム」のコンテンツの拡張・充実

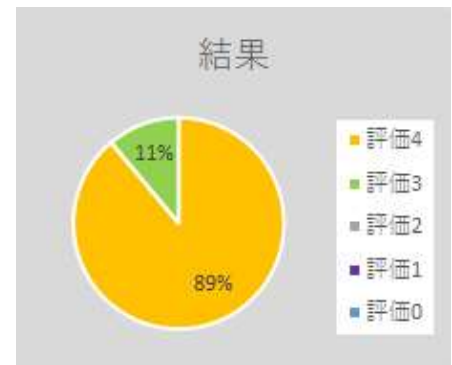
色に関する工・芸共同研究の成果や他の研究機関による最新の研究成果をメディアアート的手段でわかりやすく楽しく伝えるコンテンツを制作し、「色の体験学習型教育システム」のコンテンツのさらなる拡張・充実をはかる。

[目標達成の測定方法]

平成31年度までの工・芸共同研究の成果が全てコンテンツ化され一般公開されていること。

## ▽評価結果(9名回答/回答率100%)

評価4	十分行っている	8名
評価3	行っている方である	1名
評価2	十分ではないが行っている	
評価1	ほとんど行っていない	
評価0	全く行っていない	



## ② 重点研究テーマの確実な実施

過年度と同様な方法で研究テーマの進捗管理と評価を行っていく。

※色に関する工・芸共同研究の学内公募を行い、重点研究テーマを選定する。公募研究分野は「色と心理や感情」「色と教育」、「色と健康・医療・介護」、「色と文化財・芸術作品のデジタルアーカイブ保存」、「色とメディアアート」、「色と建築」、「光学素子、デバイス開発」とする。

[目標達成の測定方法]

過年度と同様な方法で研究テーマの目標達成度を測定する。

※自己点検・評価部会が定めた、研究進捗度、論文数、作品発表数、ギャラリーへの来場者数、公開講座、国際ワークショップの開催件数・参加人数等の指標にて目標達成度を測定する。

## ▽評価結果(9名回答/回答率100%)

評価4	十分行っている	9名
評価3	行っている方である	
評価2	十分ではないが行っている	
評価1	ほとんど行っていない	
評価0	全く行っていない	



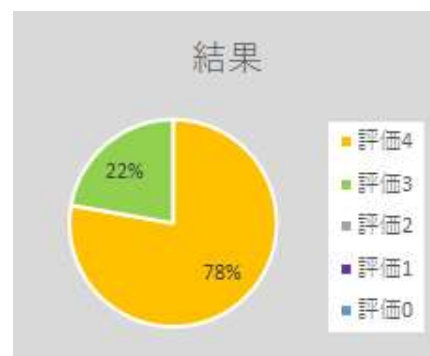
- ③ 文化庁の「文化カプロジェクト」への参画に向け、色をテーマとしたメディアアート作品制作  
文化庁は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした「文化カプロジェクト」を構想している。同構想の戦略のひとつとして、「アートと科学技術等との融合による人材育成やイノベーションの創出」が挙げられており、これはまさに本事業の趣旨と合致している。この「文化カプロジェクト」への参画に向け、本学出展プログラムのコンセプトの立案ならびにメディアアートコンテンツの制作を行う。

[目標達成の測定方法]

年度末までに「文化カプロジェクト」への出展プログラムのコンセプトが固まり、大部分のメディアアートコンテンツが制作されていること。

▽評価結果(9名回答/回答率 100%)

評価 4	十分行っている	7名
評価 3	行っている方である	2名
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	



- ④ ブランディングへの取り組み (※追加目標)

工学部と芸術学部を擁する本学ならではの取り組みについて、積極的に情報発信を行う。

▽評価結果(9名回答/回答率 100%)

評価 4	十分行っている	9名
評価 3	行っている方である	
評価 2	十分ではないが行っている	
評価 1	ほとんど行っていない	
評価 0	全く行っていない	



**本事業について、ご指摘・ご意見等ございましたら、ご記入ください。 7名記入**

- ・素晴らしい資料をありがとうございました。
- ・ランディング事業の趣旨に基づいて事業を進めておられたと思います。特に、色についての中で紅花の話は工学部と芸術学部が融合しているようで良かったと思います。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回シンポジウムの中止、まことに残念でした。仕切り直しの機会を期待しております。
- ・目標③「文化庁・・・」については、議事録より苦勞されている様子が伺えましたので、評価を3とさせていただきます。志願者数の推移はインパクトのある資料だと思います。地方の生徒が首都圏の大学へ進学するケースが減っている現状を踏まえると、健闘しているのではないかと思います。

- ・ 2019, 11 月の「色と対話する展」は、大変すばらしい企画だったと思います。体験型の展示は子どもの感性を刺激します。小・中学校の PTA のイベントなどに、ブースを設営してできないかと思いました。
- ・ 今回、書面審査なので、目標とその実施内容の関連が良くわからない点多々あります。この状況で、進捗評価していますので、評価に自信が持てません。予めご了承ください。しかし、これまでの外部評価委員会に出席した印象では、このブランディング事業が東京工芸大のブランド・研究力向上に寄与しているものと確信しています。今後の益々のご発展を祈念しております。
- ・ 3 月 13-14 日の国際シンポジウムと展覧会の中止/延期は大変残念ですがやむを得ない決定と思います。東京工芸大の志願者がブランディング事業開始と同時に急増していることに感心しております。大学のブランド力を高めることに成功されていることは、まさに本事業の趣旨に合致していると思います。

以上